



1 旧丸山変電所

碓氷峠を往来する列車に電力を供給するため、明治44年に建てられた機械室棟と蓄電池室棟は、国の重要文化財。



2 峠の湯

トロッキ列車の「とうげの湯駅」下車。日帰り天然温泉「峠の湯」には、大浴場・サウナのほか洋風と和風の露天風呂もあります。



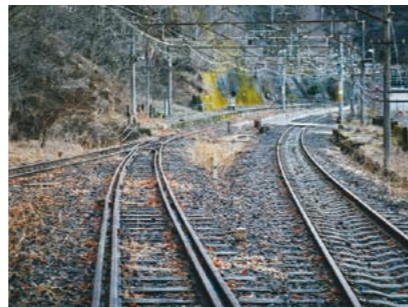
3 碓氷湖

紅葉の名所のダム湖。特に湖面に映る紅葉の美しさは必見。湖畔には約1.2kmの散策道があり、約20分で一周できます。



4 めがね橋 (碓氷第三橋梁)

高さ31m、長さ91mの4連アーチ橋。レンガ造りの建造物として日本最大級（使用レンガは約200万個）。



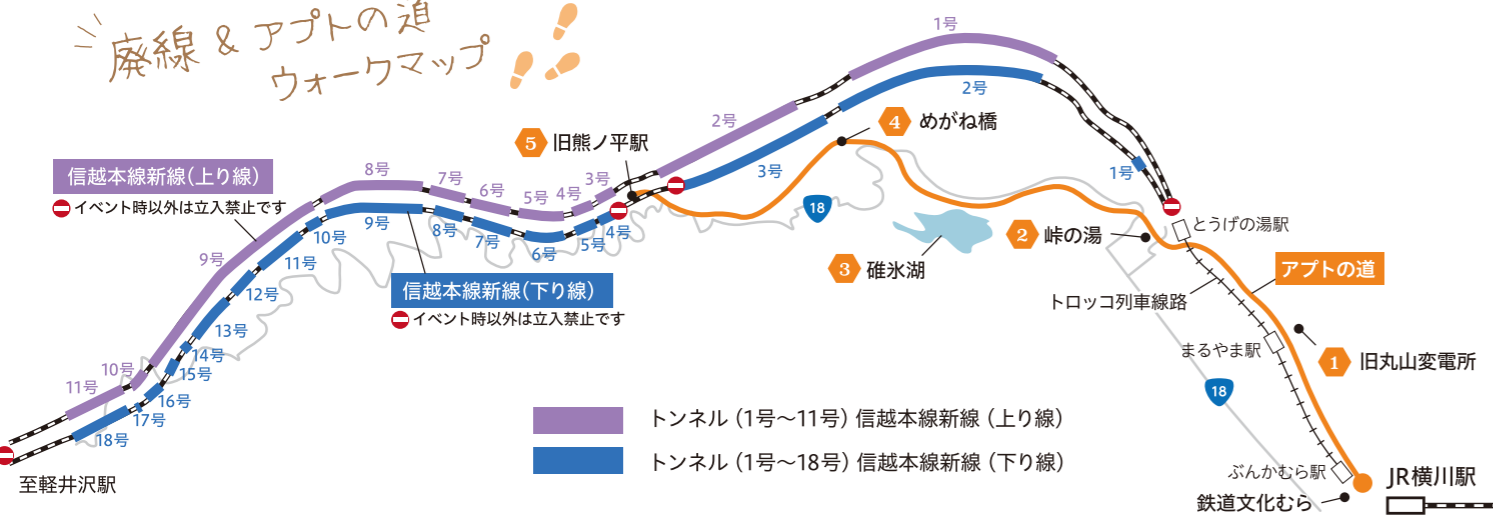
5 旧熊ノ平駅

遊歩道アプトの道の折り返し地点。線路や建物の一部が残っています。作詞家高野辰之の童謡「もみじ」ゆかりの地。

見どころいっぱい
遊歩道アプトの道

アプト式の旧信越本線の廃線跡を整備した遊歩道「アプトの道」は、「峠の湯」までトロッキ列車線に沿っています。「峠の湯」から2つのトンネルを抜けると「碓氷湖」。次の3つのトンネルを抜けるとその先に「第三橋梁（めがね橋）」。「さらに5つのトンネルを抜けた先には「旧熊ノ平駅」があり、ここが折り返し地点。自由に散策できます。

「廃線 & アプトの道」ウォークマップ



JR最大の急勾配に挑んだ104年の歴史

「碓氷線」、または横川と軽井沢から「横軽」と呼ばれた信越本線の横川-軽井沢間の開通は1893（明治26）年4月。JR線最大の急勾配66.7パーミルを登る峠越えを可能にするため、トンネル数26、レンガ造りの橋梁18を要する難工事の末に、アプト式を導入した鉄道としてスタートしました。

アプト式とはラックレールと呼ばれる歯軌条（しきじょう）を線路間に敷き、機関車の歯車と噛み合わせて運転するものです。ドイツから輸入したアプト式蒸気機関車3900形で、横川-軽井沢間を約80分で結びました。

明治40年代に入ると輸送力アップや安全性の面から電気機関車の導入が検討され、1912年（明治45）に日本初の幹線電化区間に。国産のED42形等により碓氷峠越えを49分に短縮。

その後、日本経済の発展で輸送力が限界に達するようになると複線化が進められ、1963年（昭和38）7月に信越本線新線が単線で開通。同年9月に旧線のアプト式鉄道が廃止され、1966年（昭和41）7月に旧アプト式線の一部を改修工事する形で複線化が完了。アプト式から粘着運転方式に移行し、補助機関車のEF63形電気機関車や信越本線用本務機能E

F62形電気機関車により、所要時間が登り17分、降り24分と大幅に短縮されました。

このように、輸送力向上に向け数々の電気機関車が開発されてきた碓氷線でしたが、峠越えの限界から、1997（平成9）年9月、長野新幹線（現在は北陸新幹線）の開通に伴い廃線となりました。

66.7% 1,000m 3.8° 66.7m

JR最大の急勾配66.7パーミル（1キロメートル進む毎に66.7メートルの高低差）を登る、JR最大の峠越えの難所として有名。

峠の鉄道遺産と温泉マーク発祥の湯へ



日本初の温かい駅弁「峠の釜めし」を線路上で食べる特別なランチタイム



時空を超えられそうな雰囲気の中、ヘルメット着用！

1893年（明治26）に開通した信越本線の横川-軽井沢間は、急勾配を走る鉄道としてアプト式を導入しました。その後、1963年（昭和38）にアプト式が廃止され、粘着式運転に移行。「信越本線新線」として複線化されましたが、1997年（平成9）に長野新幹線（現在は北陸新幹線）の開通にともない廃線となりました。

廃線となって25年。信越本線新線横川-軽井沢間は、普段は立ち入り禁止区間になっていますが、その貴重な鉄道遺産をガイド付きで歩く「廃線ウォーク」が不定期で開催され、プレミアムな体験が人気を呼んでいます。また、アプト式の旧信越本線

「廃線ウォーク」と「アプトの道」散策

碓氷峠の貴重な鉄道遺産を歩く「廃線ウォーク」、全国に誇る鉄道ミュージアム「碓氷峠鉄道文化むら」、温泉マーク発祥の地「磯部温泉」と、ますます磨きのかかる観光スポットを「ご紹介！」

跡は遊歩道「アプトの道」に整備され、秋には点在するトンネルやレンガ造りの鉄道遺構と紅葉が溶け合う美しい風景が楽しめます。

観光地域づくりに取り組む 観光庁認定日本版DMO法人 （一社）安中市観光機構

信越本線に湘南新宿ラインを誘致しようと、平成19年に安中市商工会が行った住民署名運動をきっかけに、蒸気機関車D51が牽引するイベント列車の横川駅への誘致が実現しました。以来、安中市・富岡市・軽井沢町の2市1町で観光連携協議会を発足させるなど、県境をまたいだ広域観光連携として誘客に取り組んできました。平成29年には安中市の発展を核とした観光庁認定日本版DMO法人（一社）安中市観光機構が設立され、情報発信や誘客への取組みなど、地域が主体となって行う観光地域づくりの推進主体として活動しています。

「廃線ウォーク」開催等のお問い合わせは
（一社）安中市観光機構
所在地：群馬県安中市松井田町横川441-6



廃線ウォーク あんとりっぷ





国鉄EF63形電気機関車 EF63運転席 アプト式の電気機関車「ED42」

1 【鉄道展示館】

日本で唯一ここだけ！本物の電気機関車運転体験

信越本線横川ー軽井沢間の碓氷峠専用の補助機関車としての役割に特化して開発された「EF63形電気機関車」は、「峠のシェルパ」、または形式称号から「ロクサン」の愛称で親しまれました。なんと、この重量108トンの「EF63」を実際に運転することができます。ただし、約1日の学科実技講習を受け、修了試験に合格する必要があります。興味のある人はホームページをチェック。また、「EF63」の運転台をそのまま利用した運転シミュレーターで、横川駅から軽井沢駅までの運転体験も楽しめます。

峠の鉄道の記憶をそのままに

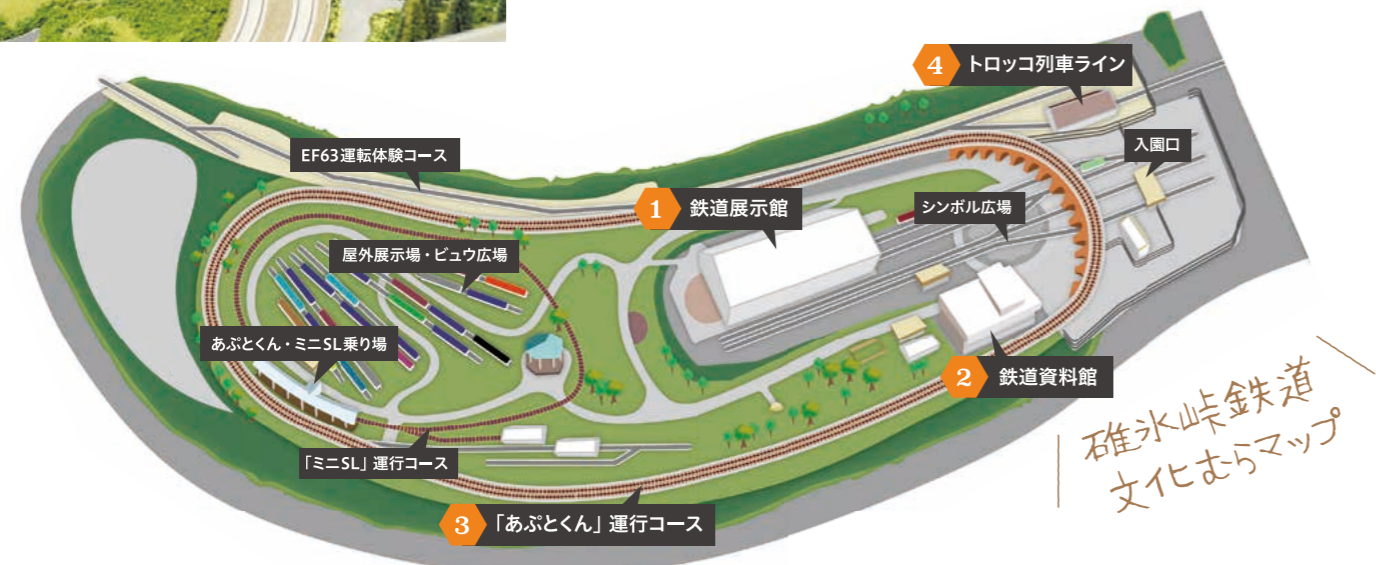
碓氷峠の専用車だった電気機関車を保存展示している鉄道展示館は、廃線まで使われていたJRの検修庫(車両を検査、修理するための整備用車庫)をそのまま利用した建物。本物のED42形を教科書にアプト式機関車の仕組みを学び、EF63形機関車の構造の一部や189系電車(特急あさま)を目のあたりにしながら、粘着式鉄道(一般の鉄道と同じ車輪とレールの摩擦で運転する方式)についての理解を深めることができます。



2 【鉄道資料館】

碓氷峠の鉄道の歴史をリアルに伝える

1階には、廃線になった信越本線<横川ー軽井沢>間が精密に再現された迫力満点の大型鉄道模型「碓氷峠ジオラマ」が展示してあります。2階は、碓氷峠と「峠越え鉄道」に関する、貴重な文書や歴史資料を展示。機関車の図面、地図、記録写真、機関車の歴代模型や制服の変遷など、専門的なコレクションが揃った見応えある内容です。



SLあぶとくん DLあぶとくん

3 【あぶとくん運行コース】

鉄道の街横川に汽笛を鳴らす蒸気機関車あぶとくん

園内を囲む一周約800m。2フィート(610mm)ゲージ軌道の高架線を、蒸気機関車発祥の地イギリスからやってきた、美しいブリティッシュグリーンの本格的蒸気機関車「あぶとくん」が、汽笛を鳴らして走ります。ディーゼルエンジンを動力源とするDL「あぶとくん」も活躍中。



4 【碓氷峠のトロッコ列車発着駅】

信越本線<横川ー軽井沢間>下り線を使用

廃止となった信越本線<横川ー軽井沢>間の下り線、全長約2.6kmを使用し、トロッコ列車「シェルパくん」が運行しています。<ぶんかむら駅>-><まるやま駅>-><とうげのゆ駅>の3駅があり、碓氷峠の線路跡を歩く遊歩道「アプトの道」が並行して通っています。※土・日・祝日運行



見て、触れて、体験できる『碓氷峠鉄道文化むら』

群馬県と長野県の県境に立ちはだかる碓氷峠。このJR最大の急勾配を鉄道で結んだ信越本線横川ー軽井沢間の104年の歴史を伝える鉄道ミュージアム『碓氷峠鉄道文化むら』は、子どもから大人まで五感で楽しむことのできる施設で、鉄道のまち横川のシンボルです。隣接の横川駅には、今も期間限定で走行する蒸気機関車や「碓氷峠鉄道文化むら」の運転体験で動く電気機関車「EF63」が、時折汽笛を響かせ鉄道のまちの健在ぶりを伝えていきます。

かつての鉄道の人気者にここで会える

『碓氷峠鉄道文化むら』は、信越本線(碓氷線)の歴史を未来に残すミュージアム。鉄道史に残る貴重な鉄道遺産を生き生きと今に伝えていきます。1963年に廃止されたアプト式の電気機関車「ED42」を見ることができ、碓氷峠専用電気機関車「EF63」は、全国で唯一本物を運転できる車両として、体験の申し込みが後を絶ちません。また、旧国鉄時代に全国で活躍してきた電気機関車や蒸気機関車、ディーゼル機関車、電動車、

客車が40車両も屋内外に展示され、周囲の山々を借景にした風景は壮観です。園内を囲む高架橋を走る「蒸気機関車あぶとくん」はこのミュージアムのシンボル。汽笛を園内に響かせます。また、炭水車と客車を連結した5インチゲージの蒸気機関車が、ちびっ子や大人を乗せて1周約300mの軌道を走ります。廃線を利用したトロッコ列車の発着駅もあり、本物に触れる喜びに歓声が上がり笑顔が広がります。

特別イベント

ライトアップされた車両がロマンチック



オートキャンプ

日程限定で行う園内でのオートキャンプが大好評。鉄道の保存車両の傍で眠るというシチュエーションや夜間走行のトロッコ列車で天然温泉に行く心躍る体験付き。朝日を浴びた車両の特別な表情も見所。



横川ナイトパーク

夜間イベント「横川ナイトパーク」は、開園時間を20:00(最終入園19:30)まで延長し、展示車両の室内灯や前照灯を特別にライトアップ。夜間にしか味わえない幻想的な雰囲気を楽しめます。

■碓氷峠鉄道文化むら

所在地：群馬県安中市松井田町横川407-16
電話：027-380-4163
開園時間：3/1～10/31 9:00～17:00
11/1～2/末日 9:00～16:30

休園日：毎週火曜(8月を除く)、12/29～1/4
※火曜が祝日の場合、翌水曜が休園。
入園料：中学生以上 500円 小学生300円
※乗物や体験、イベントは別途料金がかかります。



碓氷峠鉄道文化むら



強炭酸の鉱泉水を沸かした鍋に豆腐を入れると、ふわとろに。プリンのような食感が楽しめます。

まるで塩サイダーのような強炭酸の泉質を活用して、様々なものが誕生しました。

大正4年発行の『磯部温泉誌』に掲載された地図に、碓氷川のほとりに「ライオン歯磨ぎ工場」が記されており、磯部の鉱泉に多く含まれる重曹成分を歯磨き粉に利用していたことが伝わります。また、浅草名物雷おこしの中には「上磯部おこし」と銘打ったものが今でも販売され、磯部の鉱泉を用いた歴史がうかがえます。

そして、ほんのり甘く、サクッと軽口の中ですとろける名物『磯部せんべい』。小麦と砂糖、鉱泉水のみで作られ、その軽さは鉱泉水に含まれる炭酸水によるもの。鍋に鉱泉水を沸かしていただく湯豆腐『ふわふわ鉱泉豆腐鍋』も磯部ならではの当地グルメ。各旅館で提供しているので、宿泊してお召し上がりを！

磯部の泉質から生まれた ご当地グルメ



磯部せんべい サクサクウォーク

温泉街にはせんべい店が軒を連ねる「せんべいストリート」があり、各店を巡るスタンプラリー『磯部せんべいサクサクウォーク』（1人900円）を随時開催。店舗の個性を実感、磯部せんべいの食べ比べが楽しめます。（所要時間約1時間ほど）



- ホテル 旅館
- A ホテル桜や
 - B 磯部館
 - C ホテル磯部ガーデン
 - D 見晴館
 - E 小島屋旅館
 - F 旭館
 - G 高台旅館
 - H 旅邸 一人十色



■日帰り温泉「恵みの湯」
所在地：安中市磯部3-3-41 営業時間：10:00～21:00
休館：第1・3火曜 電話：027-385-1126

「砂塩風呂」でデトックス

日帰り温泉施設「恵みの湯」には、大浴場・露天風呂・サウナ・水風呂に加え、珍しい潜る温泉「砂塩風呂」（要予約・別料金）があります。ミネラルたっぷりの塩と白い砂をブレンドした砂塩風呂は、血行と発汗を促進して新陳代謝を促進。デトックス効果の高い人気の温泉です。

せんべい店



温泉マーク発祥の地 『磯部温泉』

碓氷川のほとりに広がる磯部温泉は、昔から中山道を旅する人や、湯治客でにぎわう温泉地でした。塩化物・炭酸水素塩強塩温泉という泉質で、肌にとわりつくやさしいお湯は、風呂上がりの肌のすべすべ感や、体の芯から温まる実感が際立ちます。自然の懐に抱かれ、のんびりと心身を整えたい人におススメです。

温泉マーク発祥の地

磯部温泉は、鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』に「塩の湧き出る所あり」と、塩気の強い鉱泉水が湧いていたことが記されています。1661年（万治4）に磯部村と隣村の土地をめぐる争いで出された江戸幕府の評決文に、磯部温泉を記したクラゲを逆さにしたような温泉マークが2つ描かれていました。これが、日本最古の温泉マークと判明。



日本最古の温泉マークが記された江戸幕府の評決文。

磯部温泉では、1981年（昭和56）に日本最古の温泉マークを刻んだ石碑を立て、2016

周辺の観光地巡りに 最適な宿泊拠点

6月～9月頃まで、碓氷川のアユのおいしさを堪能できる「磯部築」が開店します。お盆に行われる磯部温泉祭りは、今年で71回を数える県内有数の歴史ある花火大会。磯部温泉は峠の鉄道の歴史と共にあり、今もSLやEL（電気機関車）など信越線を走るイベント列車とのコラボで魅力を発信！集客アップにつなげていきます。碓氷峠の鉄道遺産群はもちろん、安中エリアの各種体験プログラム、リゾート地軽井沢、世界遺産富岡製糸場などを楽しむ拠点として最適。



「U字工事の探！発見！」
磯部温泉編



YouTube

さすが温泉マーク発祥の地!!

至る所に温泉マーク
温泉マークグッズも充実



日本最古の温泉記号を刻んだ石碑



温泉マークの
日本酒



「年染めのてぬぐい」



温泉マーク
腕時計



カレーも
温泉マーク



Tシャツ